

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291200071		
法人名	一般社団法人 正和会		
事業所名	グループホームかわたな		
所在地	長崎県東彼杵郡川棚町397番地		
自己評価作成日	令和4年11月1日	評価結果市町村受理日	令和5年1月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和4年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍での生活が続く中、ホーム内外での生活の工夫や楽しみを提供できるよう話し合いながら支援している。面会の方法もその時期で検討しながら、顔をみることが出来る様、御家族様が不安にならないようお便りでの報告をしたり、出来る方にはハガキや電話で御家族と連絡をとってもらい、お互いの信頼関係を保つようしている。スタッフもストレスを仕事に持ち込まないよう、休暇のとり方や、急な勤務変更にも対応出来る体制を整えている。

同法人の事業所の有資格者(看護師・理学療法士・管理栄養士)よりアドバイスを定期的に受けながら、日常のケアや食生活に活かすことができています。御家族にもその様子を写真で報告し、共感してもらっている。今年度は、終末期や最期の時期に直面する事があり、これからの方への向き合い方を考えさせられることがあっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍の中、家族、地域住民との面会を可能な限り継続できるよう取り組み、希望者にはリモート形式の面会を行うなど、入居者と家族が安心できる環境を整備している。障がい者実習生の受け入れや、外国人の雇用も行うほか、永年勤務の職員が多く、職員の離職率は低く推移しており、家族から「安心して任せられる」との声が寄せられている。ホームは入居者が退去した後も家族との関わりを継続するなど、家族との信頼関係を築いている。今回の外部評価の受審による家族へのアンケート結果でも、①ホームでの暮らしぶりの報告、②介護計画の説明と話し合い、③要望に対するホームの対応、④職員の生き生きとした働き方、⑤入居者がサービスに満足しているかの質問項目に100%の満足していると回答を得られたことから、家族との信頼・連携が窺え、理念に基づいた確かな支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 Aユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に添った馴染みのある言葉で表現した介護理念と、チーム理念を目に付く所に掲示し、ケアを実践している。	ユニット毎に理念に沿った年度目標を立て、年度末に職員が振り返りを行っている。毎月のユニットミーティングでも話し合い、理念の共有を図っている。全職員が一同に会した話し合いは自粛している為、代表者が各ユニットミーティングに参加して実践状況を確認し、年度末に目標達成度に応じ次年度の目標を決めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ではあるが、個別に地域との関わりができるよう、家族様にも協力をお願いしている。地域の民生委員の方へも状況を尋ねながら、相談している。	コロナ禍による影響で、地域行事への参加や、地区消防団によるホームの消防訓練への参加、ホーム催しの地域住民への案内等、これまで取り組んでいた地域との関わりを自粛している。家族の同意のもと、入居者の馴染みの美容室へ訪問美容を依頼したり、事前に面会予約をもらった上で地域住民と面会するなど可能な範囲で個別に地域交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や学生との交流が出来ない中、入居相談される方や、入居後の家族様とは認知症の症状についてや、ケアの方法を共に話し合うことをしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催方法を工夫して、コロナ禍においても対面での報告や、意見交換を出来るよう心掛けている。	運営推進会議は行政より同会議が開催できる会場の提供を受け対面会議を実施した。地域の感染状況により書面会議を行う場合は、運営推進会議の委員に案内状を持参、または電話で意見を伺い、サービス向上に活かしている。コロナ禍により会議に家族代表や入居者の参加は難しい為、運営推進会議の内容を閲覧できるよう工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場の担当者とは、日頃から連絡を取ったり状況に合わせて、相談しやすい関係を築いている。地域包括支援センターの方とも、入居の依頼や、以前利用されていた家族様の相談など受けている。	同町の長寿介護保険課とコロナ禍による対応も含め、報告、相談を行うほか、必要に応じて保健所とも相談を行っている。地域包括支援センター主催の看取りの研修で、ホームで行った看取りの体験報告を行う等、日頃より行政や関係機関と協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを目に付く所に掲示することで、正しく理解し日頃のケアが身体拘束になっていないか見直している。 三ヶ月に一度の委員会でも各事業所の報告を行い、事例を検討し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束を行っている入居者はいない。入居者への見守り支援でセンサーを使用する場合は、家族より同意を得ている。法人内に感染対策、虐待、身体拘束、事故防止、BCP作成等、各種委員会を設置し、報告・事例検討を行っている。身体拘束適正化のための指針を見直し、身体拘束の対象となる11の具体的な行為に『言葉による拘束』を独自に追加し、職員の意識付けを行うなど同委員会の取り組みを日々の実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待と思われるような対応がないか、日頃のケアや三ヶ月に一度の委員会で見直し、虐待防止についての資料などで学ぶ機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所に置いては事例がなく、制度の活用にはなっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用の契約、締結した場合は必要書類にて説明を行い、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前書いて頂いたアンケートを基に、内容を追加したり、ご本人の希望を再度確認し、御家族にも意見や要望を伺うようにしている。 運営推進会議等で内容を報告することもある。	今回の外部評価で実施した入居者家族アンケートでは、14項目中5項目が100%満足であるとの結果を得、残りの項目についても好評価であったことから家族とホームの関係が良好である事が窺える。外部評価受審結果は重要事項説明書に評価後の総評第1面を添付し、家族等へ説明している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなど、個人が自由に発言出来る場所を設け、受け取った提案は必ず検討し、出来るだけ反映出来るよう努力している。	毎月実施する職員ミーティング、朝夕の申送りのほか、管理者が職員と個別に面談を行い、意見交換を行っている。代表者は同一建物内のデイサービス事業所に常駐しており、関係性も良好で随時相談ができる態勢である。ハラスメント防止に関する規程を作成し、管理者が窓口となり対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の家庭事情や、身体状況も吟味したうえで勤務表を作成する等、出来るだけ長く安心して働ける環境作りに努めている。又、自己評価を行う事で、各自が自分自身の課題に気付く事の出来る機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に参加したい研修の希望を募り、スキルアップに繋がられるよう積極的に研修への参加を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナ禍である為、お互いの事業所への訪問などは差し控えているが、グループホーム連絡協議会や必要に応じて電話で連絡を取り合い、情報交換を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心感を感じてもらえる様、穏やかな表情と分かりやすい言葉掛け、落ち着いた口調を心掛け、本人の言葉以外にも仕草や表情からも気持ちを汲み取る様に努力し、察した思いを改めてこちらから言葉にする事で、ご本人の気持ちとズレがないかを確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の気持ちに共感や同調しながら、徐々に介護へのストレスで埋もれてしまっていたご家族の入居者に対する本当の思いと一緒に掘りおこし、それについてホームでどのような支援が出来るかについて説明出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人の状況を細かく聞き取り、アセスメントする事で、困り事やニーズを浮き彫りにし、必要なサービスを提供出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を人生の先輩として尊敬し、様々な場面でアドバイスを受けたり、意見や考え方を尊重する等、入居者様自身をまだまだ色々な事に力を発揮出来る社会資源として捉えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後もご家族を一支援者と捉え、ケアプランの中にご家族の役割を取り入れるようにしている。又、”家族に会う”「自宅を訪れる」等もケアプランの内容に組み込む事で、入居者様自身も家族との繋がりを感ぜられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	現在はコロナ禍で実行できない部分もあるが、入居後も行きつけの美容室やかかりつけの専門医への通院など、継続出来るよう支援している。又、親族以外の馴染みの方の面会もコロナ禍でも家族同様の案件で受け付けている。	入居者の必要な情報は、家族や馴染みの友人・知人などから聴き取り、必要に応じて業務日誌に残し職員間で共有している。介護計画作成責任者は随時フェイスシートにも記入し、介護計画の立案時に反映している。馴染みの方との面会は、コロナ禍により感染対策を講じた上で実現できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を見ながら会話の橋渡しをする他、入居者様全員が誰とでも関わり合えるような関係作り・支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても連絡を取ることを心掛け、必要に応じ相談を受ける等して、支援に繋げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時には必ずご本人の意向は勿論、御家族の意向も伺っている。上手く伝えられない方については、日頃の表情や言動、これまでの生活歴を参考にし、出来るだけご本人の思いを汲み取りたいと思っている。	入居者毎の担当職員は、入居者の思いや意向を把握し、季節毎の衣替え等のほか、モニタリング、アセスメントを行っている。コロナ禍の中、ホーム内にスペースを設け、予約制により家族との面会の機会を設けている。発語が厳しい入居者には職員による声掛けに対する表情や態度で意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や御家族に以前の暮らし方を尋ね、情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調管理に気を付け支援し、状況の把握に努め記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回ミーティングを開き、ユニットの職員全員でモニタリングをしている。必要に応じてミーティングを行う時もある。又、ご本人の満足度も聞き取ったり、不可能な方には、日頃の状況や表情を感じ取り評価している。	介護計画は6か月毎の見直しを基本として実施しているが、入居者の状況に応じ随時見直しを行っている。介護計画作成責任者を中心に、担当職員、全職員で意見交換し、介護計画を作成している。介護計画のサービス内容毎に採番し、全職員が介護計画の内容を把握してケアを実践できるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿い実行し、見直しがある場合はスタッフ間で情報を共有し、ミーティングを開いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や御家族の願いや希望を叶える為に、ゆっくり向き合い支援出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は個人の状況に合わせて地域の行事に参加したり、馴染みの方や場所に出掛けていたが、今はコロナ禍で思うように出来ていない。 (面会も時間を短縮している。)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日頃よりすぐに相談できる主治医がいる。又、他の医療機関との連携もしっかりとれている。	協力医いつでも相談できる態勢を構築している。受診の際は職員が同行し、入居者の既往歴、バイタル表等を持参して円滑な受診に努めている。歯科は入居者の状況に応じ、受診、または訪問診療が行われている。皮膚科への受診では、コロナ対策の為、必要に応じてタブレットを活用したオンラインによる受診支援を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師に定期的に状況を看てもらい、常に連絡を取れる体制があり、気になる事があれば相談している。又、内容を記録に残している。医師とも密に連絡を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中の状況を確認・相談を行い、ご家族とも相談を行いながら早期退院に努めている。又、コロナ禍ということもあり、面会が出来ない分連絡できる環境作りを大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師を始めご家族との意見を基に、訪問看護を利用したりしている。又、ご本人・ご家族のアンケートを実施し、少しでも要望に添える様な取り組みを行っている。	看取りの指針を整備している。終末期を迎えホームでどこまで対応できるかを主治医、家族も含め話し合い決定している。家族が医療的ケアを望む場合は、訪問看護の利用を行いながら支援を行っている。医療行為を望まず、ホームで最期を迎えたいとの要望には、本人や家族の希望に沿った看取りケアを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や委員会を行い、全職員が把握・知識の向上に努め、ミーティングなどで情報を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	委員会を始め、日頃から環境整備や防ぐための対策を行っている。コロナ禍ということもあり、外部からの協力を得ることは難しいが、定期的に訓練を行い、全職員が行動出来る様務めている。	コロナ禍前は、消防署や地域消防団の方が参加し、訓練を実施していた。現在は自主訓練により行っている。全職員が水消火器を使用した操作訓練を経験している。訓練の様子を写真に撮り便りにも掲載している。法人全体とホーム独自の感染症及び自然災害発生時の事業継続計画を作成する予定である。緊急時対応マニュアル、ハザードマップを整備してホームの所定の位置に置き、職員が常時閲覧できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活歴などを理解した上で、その方らしさを大切にしながら支援を行っている。	今年度はコロナ禍の影響により職員配置等厳しい面もあり、接遇研修も含め各種研修の受講ができなかった。職員は居室への入室や、排泄誘導時など、プライバシーに配慮しながら声掛けが行われている。	コロナ禍で各種研修への参加が難しい状況であるが、次年度に向け研修計画を作成すると共に、職員にも講師役を担ってもらうなど工夫することで、職場全員が学ぶという意識づけにもなると思われ、今後の計画的な取り組みに期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服や飲み物など選択肢を用意し、自己決定できる様にしている。又、日常から信頼関係を築き、思いを伝えやすい雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分を大切にしている。コロナ禍と言うことを配慮し、個々に合ったレクリエーションを行ったり、機能訓練やマッサージを支援したりと様々な工夫をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の洋服選びや、ヘアカット時には希望を美容師に伝えたり、カラーなどその方らしさが保てるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえから準備など、スタッフと一緒に作業を行っている。出来る方は、他の方の下膳をしたり、お盆拭きやテーブル拭き等、お互いに助け合いながら生活されている。	食事はホーム内で調理し提供している。調理経験がある入居者が食材に合わせ下拵えを手伝うなど和やかな調理風景が窺える。コロナ禍前は食材の仕入れに入居者も同行していた。近隣住民から食材の提供もあり、管理栄養士の指導の下、季節感のある食事を提供できている。本人の嗜好やアレルギーを一覧表にして各ユニットの台所に貼り、嚥下状態に応じて、刻み、ミキサー食にも対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量・水分量のチェック(表)をし、不足分は他の物で補っている。必要に応じてとろみを使用したり、形状、食器の工夫なども行っている。又、法人内の管理栄養士に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック・歯間ブラシ・洗口液を使用している。定期的に歯科受診・往診でメンテナンスを受ける他、歯科衛生士より指導を受けることで、口腔内の清潔に努めている、		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人ひとりのパターンを把握し、トイレ誘導する事でパットの使用を減らし、自立支援を行っている。	職員は日中、排泄チェック表により声掛け誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援を行っている。入居者の状態に応じて夜間帯にポータブルトイレを使用したり、安眠妨害にならないよう配慮しながら職員がパッド交換等で定期的に見回りを行っている。リハビリパンツの使用について、使用量等を職員間で検討し、適正な使用となるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の牛乳・ヨーグルトなどを個々に提供している。体操や散歩も日課にし、改善に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来るよう準備して、ご本人の希望を優先し、更衣・足浴など個別に必要な支援を行っている。	入居者毎に週3～4回の入浴を基本とし、入浴拒否、入浴順等の希望に沿った入浴ができるよう毎日入浴の準備を行っている。超高齢の方や、心疾患の方などの入浴は特に配慮し、入浴日を限定せず、適切な間隔に配慮し、適宜、足浴、清拭などにも対応している。菖蒲湯、柚子湯等、季節を感じる支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や、昼寝等で夜間の入眠が整うように支援している。夜間は、室内の照明や温度調整などの管理を行い、必要に応じてポータブルトイレを設置している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や効能・量は理解している。必要に応じて主治医へ相談もしている。又、時には薬剤師にも相談しアドバイスを受け、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の日課や好きなことをして頂く事で、喜びや楽しみになる支援をしている。家事手伝いでは野菜の切り込みやお菓子作り、洗濯物の処理など、出来る事を分担し役割を持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍3年目の現在、季節ごとのドライブで車窓からの見物を実施している。	1階玄関スペースに物品販売所、玄関外に飲料水の自動販売機があり、入居者は小遣いの範囲内で買い物を楽しむことができる。敷地内の駐車場周辺で日光浴するなど、気分転換ができています。本人の自宅周辺へ外出する機会や寺院へ参拝するなど、入居者個別で外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍にある為、本人を外へ連れての買物は出来ないが、オフィスコンビニを1階に設け、好きな物や欲しいものを購入している。小遣いの管理は職員がしていて、家族様に報告し確認して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望される時にはご家族様へ電話連絡が出来るような体制を整えている。会話が難しい方でも、スタッフが傍につき、会話の橋渡しをしている。又、面会に来れない方はリモートでの面会を実施している。可能な方はハガキや毎月のお便りにて手紙を書き、送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活しやすい様、案内表示を付けるなど安全と清潔に配慮した環境を整えている。ご本人の作品や季節に合った物を飾り、居心地よく過ごせる様に支援している。	共用空間は、毎日、入居者が不快に感じない時間や状況を見て清掃を行っている。手すりなど手に触れる場所はアルコール消毒を行い、常時換気扇、空気清浄機を使用し感染対策を行い清潔保持に努めている。職員と入居者が季節を感じる飾り付けを行い、ソファ、畳、テレビ等、入居者が快適に過ごせる配置を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の意向や、身体状況に合わせ、座席配置をしている。畳やソファもあり、ご本人が居心地の良い場所で安心して暮らせる様にしている。又、地域の広報誌や新聞などを置き、思い思い過ごして頂ける様工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談しながら、馴染みの寝具や家族写真、身体状況や好みに合った家具を置き、居室を居心地の良い場所に来る様工夫している。	入居時に居室へ持込むことができる物品を文書で説明している。火気類の持込みはできず、その他ペット、刃物、高額品などは相談の上決定している。居室は定期的な清掃・換気を行い、清潔保持に努めている。居室には本人の馴染みの家具、家族写真等が持込まれており、各備品類は動線に配慮し配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の身体能力や機能・性格などを十分に把握して、ご本人の目線に合わせた環境作りを行い、一人ひとりが安全に自立した生活を送れる様、日々確認しながら支援している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 Bユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に添った馴染みある言葉で表現した介護理念を常に共有し、ケアを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍ではあるが、個別に地域との関わりが出来る様、家族様にも協力をお願いしている。地域の民生委員の方へも状況を尋ねながら、相談している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や学生との交流が出来ない中、入居相談をされる方や、入居後の家族様とは認知症の症状についてや、ケアの方法を共に話し合うことをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催方法を工夫して、コロナ禍においても対面での報告や、意見交換が出来る様心掛けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場の担当者と、地域包括支援センターの方とは、相談しやすい関係作りをとっており、情報交換や連絡など取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを常に目の着く場所に掲示しており、毎月のミーティング時に、自分たちのケアについての振り返りや、検討を行っている。又、3ヶ月毎に委員会を開催し、各事業所の事例を持ち寄り検討会や勉強会を行うなどの取り組みが出来ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてのマニュアルを常に目のつく場所に掲示しており、毎月のミーティング時に自分たちのケアについて虐待と思われるような対応がなかったか振り返り話し合いを行ったり、3ヶ月毎に委員会を開催し、各事業所合同の委員会でも振り返りや検討を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当事業所においては事例がなく、制度の活用にはなっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用の契約、締結した場合は必要書類にて説明を行い、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見は日々の会話の中で意向を汲み取ることを意識しており、家族様の意見についても面会や問い合わせ時、担当者会議の際に話して聞き出せるようにしている。内容を運営推進会議等で報告することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの場や職員個人が、意見や提案を言える機会を設け、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員自己評価を行い、個々の努力や実績、生活状況に合わせた勤務体制や変更など応じることで、働きやすい職場環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内があり、職員の力量や適性を分析し、把握しながら参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で同業者との交流の機会はないが、グループホーム連絡協議会や電話などでこまめに連絡を取り合い、情報交換し他事業所との関わりを継続し、サービスの向上に繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報を収集し、自宅訪問を行い、ご本人やご家族の要望、困り事を伺い安心・安全にサービスを受けられる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する際、ご本人やご家族の要望をしっかりと聞き取り、不安がないよう願いに添ったサービスの提供を行い、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時点での状況で、ご本人やご家族の要望・意見を汲み見極めて、適切なサービスが提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、入居者様の要望や想いに耳を傾け、当施設独自のアンケートにも記入してもらい、共に暮らしをする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話などでご本人の状況を伝え、要望や意見等を伺いながら、ご家族と職員が協力し合い支え合えるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今、コロナ禍でもあるので訪ねたりは出来ないが、短時間の面会に来て頂く等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格の把握に努め、相性を配慮し心地良い関係で生活を送れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の思いを言える方は勿論、意思疎通が難しい方には、表情・仕草などから気持ちを汲み取れるよう努力し、必要に応じて家族様に協力をお願いし、情報の共有をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には以前の生活歴、環境などを伺い記録し、スタッフ全員が把握に努めている。又、日々の会話の中でも新しい情報を得てスタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの気持ち、好みに合わせその人らしい生活を送れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様のモニタリングをミーティング時に話し合い、必要時には家族様にも協力して頂き、その方に合ったケア方針を介護計画に反映し作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づきなどを個人記録へ記入し、ミーティング時に話し合い、時には緊急ミーティングも行い職員間での情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族の状況を把握し、個々の様々なニーズに対応出来るように既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスを検討し対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年もコロナウイルス感染症の視点から地域行事への参加は難しく、広報誌や地域テレビなどを見て頂きながら以前の生活を思い出したり、楽しんで頂ける様な支援を心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が信頼されている地域の医者との関係を継続しつつ、必要に応じて他の医療機関も受診し適切な医療を受けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師が定期的に入居者様の状況や経過を確認しているが、必要時にはその都度相談し早期に適切な医療を受けることが出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院された際も、相談員など病院関係者やご家族との連絡を密に行い、状態を把握する事で出来るだけ早く退院出来る様な関係作りや支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病気などが重症化した場合や、終末期のあり方については早い段階からご家族様・ホーム側・主治医・看護師を含めて話し合いを重ね、ご本人・ご家族の意向に合った支援が出来る様に、スタッフ間でも情報交換しながら、チームで協力し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当・初期対応のやり方、又、職員・ご家族とのライン(連絡方法)も把握するよう心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	昼夜共に災害時を設定し、利用者様の避難ルート、安全かつ敏速に行動出来るように、訓練等を実施し全職員が身に付けるよう務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各個人その方の性格を尊重し、気分を損なわないような言葉掛け、対応に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活上、個々の希望や思いを出してもらえり様な働きを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様各自の趣味や特技などを活かし、その方のペースで楽しんで頂けるよう心掛け支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の好みや思い出の服など、その方に合った身だしなみに気を付け支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に合った味、調理法で彩りを考え楽しみや喜んで頂けるような食事提供を試みている。食べる楽しみをもてるよう、手伝いもお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携し、バランスの良い食事を提供している。水分量は摂取量を記録し、摂取が少ない場合はその方が好む飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後と口腔ケアを実施している。口腔ケアに介入が難しい場合は、マウスウォッシュなどを使用し、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の尿意・便意の訴え以外にも、時間を見て排泄誘導をしている。又、排便の間隔や頻度に関する情報の共有・周知に努め、便秘が続かないよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に時間、量を記入している。排便がなかった日数に応じて、朝から乳製品を提供するほか下剤を服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様それぞれに対して、負担が少ないような入浴方法を毎月のミーティング等で検討・実施している。又、柚子湯なども取り入れ、入浴を通して季節を感じる事が出来る様な取り組みも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の想いに寄り添ったり、安全な導線の確保をした居室作りをする等、安眠に繋げられる様な工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後、処方に変更が合った場合には、検査の結果と新しい薬を確認し、何故変更されたのか、どの様な効果があるのか確認し、スタッフ間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝い、野菜を切ったり洗濯物を畳んだりご本人が出来る範囲を分担し、役割を持たれたいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、地域の人々との触れ合い等は無いが、ご家族や親戚の方との面会を設けたり、その季節にあった行事や外出に力を入れている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、ご本人を連れての買物は難しいが欲しい物や必要なものがあれば、スタッフが代行している。又、オフィスコンビニを活用してお金を持ち買物支援も出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字を書ける方は手紙を書いて頂き、毎月のお便りに同封したり、書けない方は職員が代筆するなどして、支援している。又、時には電話などにて話し支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事ごとに撮った写真や飾り付けで季節を感じてもらい、照明や温度調整等で心地良く過ごせる様にしている。食堂では個人で使用するものは名前を記入し、混乱の無いようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気に入ったソファや気の合う方同士を一緒に、落ちついた空間を提供出来るよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた物や馴染みの物を居室へ置き、使いやすい位置に置いたりするなど、落ち着ける空間を提供出来る様支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ安全に、自立した生活が出来る様、一人ひとりの能力や身体機能・性格などを把握し、個々の目線に合った環境作りを心掛けている。		